

# Social Workers

社大OB・OGがつむぐ福祉の絆

ソーシャルワーカーズ

2013

1月

Vol.8

## 精神障害者の生活と 社会参加を支援する



自立訓練事業所の利用者のみなさんと

統合失調症など心に障害のある方が社会参加するために、個別の支援や社会のより良い変革に努力するのが精神保健福祉士（精神科ソーシャルワーカー）です。精神保健福祉士は、医療機関やグループホームなどの生活支援施設・自治体などに勤務し、入退院や日常生活、就労の相談などに応えます。

### interview



ほしの ひさし  
**星野 久志さん**

社会福祉法人 富士福祉会  
理事長



いいだ えり  
**飯田 絵里さん**

NPO法人 多摩在宅支援センター「円」  
生活訓練事業所「転」副所長

# 人生経験すべてが生かされる

—その人の豊かな人生を支えたい—

社会福祉学部福祉援助学科  
2008年卒業

## いいだえり 飯田 絵里さん

NPO法人 多摩在宅支援センター「円」  
生活訓練事業所「転」副所長  
精神保健福祉士 社会福祉士

### PROFILE

1985年 埼玉県深谷市生まれ  
2008年 社会福祉学部福祉援助学科卒  
医療法人社団幸悠会 所沢慈光病院  
総合支援室入職  
2011年 NPO法人多摩在宅支援センター「円」入職  
2012年 同センターの生活訓練事業所「転」に異動

### 飯田さんのある日

8:30 出勤  
9:00 多摩在宅支援センター本部で訪問看護ステーション、地域活動支援センター、在宅ケアセンターの職員と合同ミーティング  
9:30 職員ミーティングで利用者の送迎など業務シフトや担当の確認  
10:00 利用者の送迎準備、車で在宅訪問へ向かう  
10:30 利用者宅に到着。体調確認  
福祉サービスの申請手続きのため市役所へ同行  
12:30 2人目の利用者を送迎、別の方と相談室で面談開始  
13:30 面談終了。遅めの昼食  
14:00 フロアで本日のプログラムのストレッチ運動を行う  
15:00 通所事業終了、通所利用者を見送る。  
自転車3人目の訪問先へ  
17:00 訪問先から帰り、1日のケース記録と関係機関との電話連絡  
18:00 月末のためレセプト請求入力など書類作りで残業  
21:00 帰宅



職場のみなさん



事業所のパンフレット



## 通所のプログラムと 自宅訪問の両面から支える

飯田絵里さんは、精神障害のある方の生活能力回復や社会復帰のための支援をする生活訓練事業所「転」に勤務しています。統合失調症や薬物・アルコール依存、うつなどの精神疾患を治療中の方や、日常生活に不安のある10代から60代まで40名に対して、それぞれのニーズに応じて来所される方への支援と自宅へ訪問する支援を行っています。

「転」は東京都のJR立川駅から徒歩15分。NPO法人多摩在宅支援センター「円」の事業の一つとして昨年1月に開所しました。同10月から副所長を務める飯田さんは、利用者の個別支援計画を作成しそれぞれの生活目標や支援内容を計画するほか、自宅訪問、通所する方の送迎、面談、生活訓練プログラムの企画と実施など、さまざま

な業務を9人の職員でシフトを組んで行っています。

## その人らしい豊かで 多様な生活を応援

飯田さんの朝は、本部にある訪問看護ステーションや在宅ケアセンター、相談事業所との合同ミーティングから始まります。その後「転」の職員ミーティングを行い、担当シフトを確認、利用者一人ひとりの申し送りをします。「支援に必要なさまざまな情報を共有することが大切です」。

午前10時から午後3時までは通所して来られる利用者を迎え、面談や生活訓練プログラムを行います。毎日行われるプログラムは日替わりで、利用者の体力維持のためのストレッチやヨガなど体を動かすものや、生活力をつける第一歩としての清掃や軽作業、仲間と共に楽しみながら料理する力がつくパンやお菓子作りなど、その人の状態に合わせて参加を促します。

一方、通所するのが難しい方には、飯田さんらスタッフが個別に自宅訪問します。買い物の付き添いや金銭管理の相談など、生活に密着したさまざまな支援を行います。

「引きこもりがちで最初は私と目も合わせてくれなかった方が、段々と話してくれるようになります。少しでも笑顔が出たとき

は最高です」。

## 人生経験が力になる ソーシャルワーカーの仕事

飯田さんは中学生の頃から高齢者施設でのボランティア活動に積極的に参加し、医療や福祉に関わりたくと考え、日本社会事業大学に進学しました。中でも精神保健福祉士を目指したきっかけについて、「実習先の精神科病院には、若い時から40年も50年も入院している人がおられて、衝撃を受けました。自宅で暮らすことが当たり前なのに、地域に戻るためのサポートが不足しているために退院できない現実を目の当たりにして、この方々をサポートする仕事をしたい、と強く思いました」と語ります。

卒業後は、精神科・心療内科のある病院勤務を経て現在の仕事に就きましたが、そこでの経験があつてこそ、今の仕事があると感じているそうです。

ソーシャルワーカーの仕事とは「衣食住や人間関係、金銭管理や趣味など自分が生きてきたすべての経験が生かされる仕事だと思っています」。大学時代はダンスサークル活動に全力で取り組んだという飯田さんですが、「その経験も含め、またこれから仕事や結婚など年齢を重ね、さらに力になっていくのが楽しみです」と生き生きと語ってくれました。

# 障害のある人のための居場所づくり

— 偏見を減らし、社会で認められてこそ —



社会福祉学部児童福祉学科  
1984年 卒業

ほしの ひさし  
**星野 久志さん**

社会福祉法人 富士福祉会 理事長  
精神保健福祉士

## PROFILE

- 1960年 広島県生まれ
- 1984年 社会福祉学部児童福祉学科卒業  
富士作業所入職
- 2010年 社会福祉法人 富士福祉会 理事長就任



事業所パンフレットと  
記念誌

まちだ中央公民館  
喫茶コーナー



富士第二作業所



## さまざまな事業で 精神障害者の 社会参加を支援

星野久志さんが理事長を務める「社会福祉法人 富士福祉会」では、精神障害のある人々が安定した心で地域社会で生活できるように、「働く・相談・住まう」を3本柱にさまざまな事業を運営しています。

たとえば障害のある方が働く施設では、屋外や病院などの清掃サービス、天然酵母パンやお菓子の製造販売、お弁当の製造と宅配、公民館の喫茶店の運営や封入作業などを行っています。いずれも丁寧な仕事ぶりにお客様から好評を得ています。また富士福祉会では、日常生活の技

術を身につける訓練、就職相談を行っているほか、自立をめざして生活体験を積むためのグループホームやケアホームなども運営しています。

「毎日あちこち飛び回っています」と笑顔で話す星野さんは、東京都町田市内に点在する11事業所を曜日ごとに巡回して、それぞれの所長や運営者と打ち合わせ、運営状況などを確認しています。

## 障害者の活動場所を 地域につくるために 活動

今では幅広い支援を行っている富士福祉会ですが、始まりは1978(昭和53)年に精神障害

## ○星野久志さんのあゆみ

- 1984年 社会福祉学部児童福祉学科卒業  
精神障害者作業所 富士作業所 入職
- 1985年 富士第二作業所を開所 所長就任  
都内で初めて東京都共同募金会から、精神障害者作業所への助成を受ける
- 1992年 東京都と町田市の助成を得て、「社会福祉法人 富士福祉会」認可・設立  
理事兼事務局局長就任
- 1993年 通所授産施設「ひあたり野津田」開所 施設長就任
- 1995年 自立訓練事業所「ATOM」開所
- 1998年 自立した生活をめざす方が生活体験するためのグループホーム「さるびあ・のぞみ・いぶき」開所、「富士清掃サービス」開所
- 2002年 まちだ中央公民館にて喫茶コーナーをオープン、天然酵母パンやシフォンケーキ、「あいちちゃんクッキー」なども販売
- 2006年 町田市委託「町田市こころのケア相談事業」開始 町田市民の相談に対応
- 2007年 ケアホーム「まがけ ふくろうの郷」「まがけやまびこの杜」開所
- 2008年 富士作業所30周年記念式典実施
- 2009年 町田市委託「町田市障がい者就労・生活支援センター Let's」開所  
障害者就労支援のほか、企業からの障害者雇用の相談も受け付け
- 2010年 「社会福祉法人 富士福祉会」理事長就任



## 社会活動

- 一般社団法人「支援の三角点設置研究会」理事長
- 特定非営利活動法人「ワイワク22」監事
- 社会福祉法人 富士福祉会主任研究員
- 町田市障がい程度区分 認定審査会委員



「ATOM」入り口には  
みなさんで作った作品が  
飾られています



自立訓練事業所「ATOM」

のある方々の家族によって開所された無認可の「富士作業所」でした。精神の障害は発症時期を

特定しづらく、青年期になって発症する場合も多いため、本人も家族も障害を認められず対応に戸惑うことも多いといえます。この富士作業所は東京都では6番目、町田市で初めて設立された精神障害者福祉施設で、星野さんは日本社会事業大学卒業と同年に入職して以来29年間歩んできました。

「私が入職した1984（昭和59）年当時は、精神障害のある方たちに対してまだ世間の偏見も強かった。退院しても仕事の受け皿がないため社会生活に戻れない、症状が悪化する、居場所がない、また入院。まるで回転ドアのようと言われるような悪循環でした。家族の皆さんが切羽詰まった思いで立ち上げて、数人で運営していたのが富士作業所でした」。

壮大な富士山にちなんで命名された富士作業所は、町田市で唯一の障害者福祉活動の拠点でした。しかし、家族会員だけの自主的な運営だったため行政からの助成金はわずかで、利用者



ケーキやクッキー入れとして人気のペーパーバッグ

は会員の子や兄弟に限られた小さな活動でした。星野さんたち職員は、何ごとにも閉ざさない社会的な活動を行う作業所を作りたいと考え、家族会員以外も利用できるようにしたところ利用希望者が急増。翌年には富士第二作業所を開所し所長に就任しました。

星野さんの仕事の中心は、町田市や東京都などの行政に積極的に働きかけて、制度の見直しや活動予算の話し合い、助成金の交渉、一般市民への啓発活動の提案などでした。「この人たちのためにできることは何か、私たちはひとつのチームであり、行政との交渉もソーシャルワークだと考え、できることに力を尽くそう」という気持ちでやってきました」という星野さんの努力で、都内の施設で初めて赤い羽根共同募金から助成金を受けることとなりました。1992年には「社会福祉法人富士福祉会」として新しいスタート。以来、多くの事業を展開し、東京都の「退院促進コーディネート」事業や町田市の「こころのケア」相談事業などの委託を受けています。

## これからあとに続く人を育てたい

星野さんは「日本社会事業大学に入学するまでは実際に精

神障害のある方との接点もなく、支援する仕事があることさえも知らなかったんです」と言いますが、熱い思いで走ってきた心の支えになったのは、今は亡き恩師から受けたソーシャルワークの学びだといいます。卒業後も仕事を通して接点があり、「星野君は頑張っているか」と気にかけてくれた先生方にはありがたさを深く実感し感謝しており、教え子だったことを誇りに思っています。

「富士福祉会を運営するに当たっては、はじめは障害者の居場所づくりを目指していましたが、しかし、居場所があるだけでは社会生活を送っていることにはなりません」。

星野さんは、障害のある人たちがいい働きをして社会で認められることで偏見を減らし、さらに障害のある人たちを支援する施設やボランティアの人たち同士が連携してつながりを持つことで、地域の拠点としての役割を果たせる富士福祉会をめざしたいと語ります。

「そのためには持続可能な企業でなくてはなりません。あと10年、私が定年を迎えるまで続けられた時、富士福祉会は40年続く企業となります。これからは私のあとに続く人を育てたいと思っています」。

## 精神保健福祉士とは？

精神保健福祉士は精神科ソーシャルワーカー（Psychiatric Social Worker）の頭文字からPSWとも呼ばれる専門職の国家資格です。精神保健福祉士は、心の病のため日常生活や社会生活に困難のある人が社会復帰し地域社会で生活するための支援を行います。たとえば病院などを退院した後の日常生活や就労などについて、さまざまな機関において相談・援助を行います。医療・保健・福祉など複数の領域に関わり、他職種と連携しながら活動します。

### Q 精神保健福祉士はどこで働いているのですか？

A

#### 医療機関

総合病院の精神科・精神科病院や診療所などで、主治医や看護師、作業療法士など医療専門職と連携して、福祉の専門職の立場から、支援を必要とする方の権利を擁護し支援を行います。入退院の援助、退院後の生活支援など、医療と地域生活の橋渡しを行い、障害のある方を地域で支えます。

#### 福祉行政機関

自治体・保健所・福祉事務所・精神保健福祉センターなどで、法律に基づいて、支援事業の申請手続きや就労支援、退院後の生活相談などを行います。また、地域における住民への啓発・広報を行うのも活動の一つです。

#### 生活支援施設

支援を必要とする方の社会復帰と自立を促進し、生活を支援する施設として、小規模作業所・福祉ホーム・グループホーム・自立訓練事業所などがあります。ここで、それぞれの設置目的にもとづき幅広い支援を行います。買い物や調理、金銭管理などの日常生活の基本を一緒に行ったり、お菓子を作ったり、清掃活動などの作業を通して能力回復や向上をめざすなど、就労前の準備や就職活動の支援を行います。

#### その他

保護観察所や矯正施設において、社会復帰をめざす方々を支援します。また、介護保険施設や老人病院では、利用者の生活支援や家族の支援を行います。